Museum Collection Exhibition

Simply *Maki-e*:

Showcasing Lacquerware from the Nezu Collection

企画展

蔵出し 蒔絵（まき え） コレクション

蒔絵とは、漆で文様を描いて、その漆が硬化しないうちに金や銀の金属粉を蒔（ま）き付けて装飾する技法です。正倉院宝物の中にその源流と考えられる作例があり、平安時代以降は日本で独自に発達して現在に至っています。漆黒の器表をあやなす金色のグラデーションの眩（まばゆ）い世界は、人々を魅了し続けています。

初代 根津嘉一郎（1860 ～ 1940）がコレクターとして一躍脚光を浴びるきっかけになったのは、蒔絵作品の購入です。足利義政、松花堂昭乗（しょうかどうしょうじょう）が愛用したと伝えられる名品「花白河蒔絵硯箱（はなのしらかわまきえすずりばこ）」をかねがね手に入れたいと思っていた嘉一郎は、明治 39 年（1906）11 月、大阪の豪商・平瀬家の売立にかけられた同作を当時としては破格の高値で落札、世間を驚かせます。その後も購入は続きますが、特に晩年、当館の蒔絵コレクションを代表する優品の数々を手中におさめています。

本展覧会は、嘉一郎が蒐集した蒔絵作品の粋（すい）をまとめて紹介する初めての機会となります。蒔絵史において重要な作品を数多く含むとともに、文房具、仏具、香道具、飲食器、装身具などバラエティに富んでいることが特色です。これらの用途ごとの展示に技法の豆知識を交えながら、おなじみのものから初公開の作品まで、重要文化財 4 件を含む約 70 件で蒔絵の豊かな世界をお楽しみください。

2022年 9月10日(土) ～ 10月16日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM https://www.nezu-muse.or.jp

根津美術館
NEZUMUSEUM

室町時代の蒔絵技術の到達点を示す名作で、室町幕府八代将軍・足利義政遺愛の硯箱としても名高い。蓋の表裏に散らされた文字と図様から、主題となる和歌を読み解く理知的な構成も秀逸である。

重要文化財
春日山蒔絵硯箱（かすがやまま きえすずりばこ）
1合　木胎漆塗
日本・室町時代　15世紀

蓋裏（部分）

徳島藩主・蜂須賀（はちすか）家伝来の薬箪笥（くすりたんす）で、藩主お抱えの蒔絵師・飯塚桃葉の大作。圧巻は蓋裏である。百種もの草や虫がその名称を添えて研出（とぎだし）蒔絵で表されており、卓越した蒔絵技術と共に、背景にある18世紀の本草（ほんぞう）学の隆盛も垣間見ることができる。

百草蒔絵薬箪笥（ひゃくそうまきえくすりたんす）
飯塚桃葉（いいづかとうよう）（初代）作
1具　木胎漆塗
日本・江戸時代　明和8年（1771）

『源氏物語』全54帖を収める。紫式部ゆかりの石山寺の景観が蒔絵で表される源氏箪笥の中では最も古い。江戸幕府のお抱え蒔絵師である幸阿弥（こうあみ）家の制作とされる。
【前期（9/10～9/25）展示】

重要美術品
石山寺蒔絵源氏物語箪笥（いしやまでら まきえ げんじものがたりたんす）
1基　木胎漆塗
日本・江戸時代　17世紀

★蒔絵と金箔★
金の装飾には金粉を用いる蒔絵の他に、金を叩いて薄くのばした金箔を貼る方法があります。しかし、この二つでは使用する金の量が全く異なります。約10cm四方の金箔は0.03gほどですが、同じ面積を蒔絵の金地で表すには約4g必要です。その差は130倍以上。工程の複雑さも含めて考えると、いかに蒔絵が贅沢な技法であるかがわかります。

展示室1・2 企画展 蔵出し蒔絵コレクション

坂上田村麻呂の鈴鹿山での鬼退治の故事を意匠化した硯箱で、戦闘を繰り広げる兵士や鬼たちを、蒔絵と彫金の超絶技巧で表す。紀州徳川家伝来。

鈴鹿合戦蒔絵硯箱
1合　木胎漆塗象嵌
日本・江戸時代　18～19世紀

雪華蒔絵箱
1個　木胎漆塗
日本・江戸時代　19世紀

雪の殿様こと土井利位が天保3年（1832）に『雪華図説』を刊行後、雪の結晶の文様が大流行する。本作もそのひとつで、粉雪のような梨子地との組み合わせが洒落ている。

画家・抱一と蒔絵の名工・羊遊斎とのコラボレーション。購買層が拡大した大都市江戸において、二人は櫛や盃といった小品の制作にも積極的に参画、人気を博した。

雪月花三社蒔絵朱盃
原羊遊斎作・酒井抱一下絵
1具　木胎漆塗
日本・江戸時代　19世紀

実用から離れて装身具として発達した印籠は、掌に収まるサイズながら、大作にも劣らない様々な技巧が駆使された。その精緻さには目を見張る。

御簾葵蒔絵印籠　銘 梶川作
1個　木胎漆塗
日本・江戸時代　19世紀

※会期中、一部展示替えがあります。　前期展示：9/10（土）～9/25（日）、 後期展示：9/27（火）～10/16（日）

【表紙の作品】
中央：重要文化財　春日山蒔絵硯箱　日本・室町時代　15世紀
画面左上から時計回りに：遍照蒔絵硯箱（部分）　日本・江戸時代　19世紀／源氏物語図蒔絵貝桶　日本・江戸時代　18世紀
蓮池蒔絵鞍　日本・江戸時代　18～19世紀／雪月花三社蒔絵朱盃　原羊遊斎作・酒井抱一下絵　日本・江戸時代　19世紀／雪華蒔絵箱　日本・江戸時代　19世紀
鈴鹿合戦蒔絵硯箱（部分）日本・江戸時代　18～19世紀／御簾葵蒔絵印籠　銘 梶川作　日本・江戸時代　19世紀／蓮池蒔絵経箱　日本・鎌倉時代　13世紀
花文蒔絵提重　日本・江戸時代　19世紀　（すべて根津美術館蔵）

同時開催展

展示室5
陶片から学ぶ －日本陶磁編－

土質や制作技法など様々なことを教えてくれる陶磁器の破片。陶磁器研究の醍醐味とも言える陶片の世界にご案内するシリーズ、最後の第三弾は日本陶磁です。

御室窯は、野々村仁清が京都の仁和寺（御室）門前に開いた窯のこと。当館では、「仁清」印が捺された茶入・茶碗などの陶片16点を所蔵する。

陶片
京都 御室
16点　日本・江戸時代　17世紀

展示室6
清秋の一服

空気が清らかに澄み、空が晴れ渡った秋の日にいただく一服の茶。季節の茶道具約20件の取り合わせで、さわやかな秋の訪れをお楽しみください。

垂れ下がった粟穂の下で、振り返る一羽の鶉。粟と鶉の組み合わせは、古来、和歌に詠われ、秋の風情をあらわす景物として好まれている。

粟鶉図（部分）
土佐光成筆
1幅　絹本着色　日本・江戸時代　17～18世紀

※本リリース掲載の作品は、すべて根津美術館所蔵品です。

開催概要

展覧会名	企画展「蔵出し蒔絵コレクション」 日時指定予約制　ご来館前に当館ホームページより日時指定入館券をご購入ください。 （根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。）
主催	根津美術館
開催期間	2022年9月10日（土）～10月16日（日）
開館時間	午前10時～午後5時（入館は閉館30分前まで）
休館日	9月19日（月・祝）、10月10日（月・祝）を除く毎週月曜日、9月20日（火）、10月11日（火）
入館料	オンライン日時指定予約　一般　1300円（1100円）　学生　1000円（800円） ※（ ）内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ※オンライン日時指定予約の定員に空きがある場合のみ、当日券（一般1400円）を美術館受付で販売いたします。 ※2022年9月6日（火）より当館ホームページで予約を受け付けます。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口（階段）より徒歩8分、 B4出口（階段とエスカレータ）より徒歩10分、B3出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536（代表） website　https://www.nezu-muse.or.jp
広報・取材のお問合せ	学芸部 広報課　所／村岡 Tel. 03-3400-2538（直通）　e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。
プレスリリースと画像申請書は、当館ウェブサイトの「プレス関係の方へ」からダウンロードも可能です。

次回展

特別展「**将軍家の襖絵**」

2022年11月3日（木・祝）～12月4日（日）

室町時代の足利将軍邸は、今は失われた多くの襖絵で飾られていました。室町時代末から江戸時代の屏風絵により、その世界を復元します。

四季花鳥図屏風　狩野松栄筆
6曲1双のうち右隻
日本・室町時代　16世紀
山口県立美術館蔵

＊本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2022.6.)